

# さいわい Digest

## I. 明治、大正、昭和時代の姿

現在の幸区役所庁舎は戸手浄水場の跡地に建てられました。この戸手浄水場は当時の川崎で初めてとなる近代浄水施設であり、臨海部を中心とする工業化、内陸部における宅地開発に対し、工業用水や生活用水の供給を充実させ、市の発展に大きく寄与しました。

当時の幸区域は、新鶴見操車場の開業や、川崎駅西口を中心として、多くの工場が設立された時代でもあり、川崎の工業化の始まりの場所となりました。



## II. 幸区の誕生

戦災により川崎市の中心部は焼け野原となりましたが、戦後の復興と京浜工業地帯の発展により、川崎は政令指定都市となりました。

これに伴い、市内に5つの行政区が作られ、幸区も昭和47年に誕生しました。当初は現在の石川記念武道館のあるところに区役所庁舎(旧:御幸支所)があり、その後、昭和50年に現在の場所に移りました。市内唯一の動物園がある夢見ヶ崎動物公園も川崎市が政令市となったことを記念し、昭和49年に開園しました。



明治17年	明治39年	大正10年	大正13年	大正14年	昭和2年	昭和4年	昭和19年	昭和47年	昭和48年	昭和49年	昭和50年	昭和51年	昭和52年	昭和55年	昭和56年	昭和59年	昭和60年	昭和63年
明治天皇が小向梅林(現・御幸公園)に行幸する	横浜精糖(後の明治製糖)が南河原に設立 (現在のソリッドスクエア) 東京電気川崎工場(後の東芝堀川町工場)が堀川町で操業	戸手浄水場(現・幸区役所)が設置される	川崎町・大師町・御幸村が合併して川崎市となる	明治製菓が明治製糖の隣に設立 (現在のソリッドスクエア)	南武鉄道が開通 (川崎駅↔登戸駅間、矢向駅↔川崎河岸駅間)	新鶴見操車場が開業	川崎市中央市場 (現在の川崎市地方卸売市場南部市場)が開設	川崎市が政令指定都市となる 幸区が誕生	日吉出張所が開設	夢見ヶ崎動物公園が開園	幸区役所が現在の場所に移転	川崎河岸線跡地にさいわい緑道が設置	石川記念武道館が開館	幸文化センター(図書館・市民館)が開館	第1回 幸区民祭が開催	新鶴見操車場が廃止	幸スポーツセンターが開館	産業振興会館が開館

## Ⅲ.平成の転換期

平成に入ると川崎区の臨海部エリア、中原区の小杉エリアと並び、川崎駅西口エリアの再開発が進められてきました。ラゾーナ川崎やミュージア川崎などの大型施設やホテルが並ぶ一方で、緑道や夢見ヶ崎動物公園などの緑があふれるエリアも残され、現在の自然と都市が融合したまちづくりが進められました。



川崎駅西口



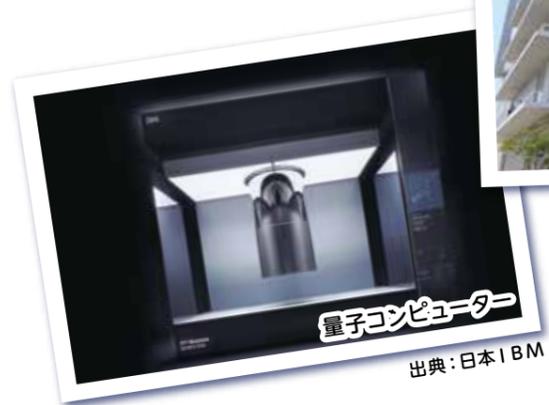
慶應義塾大学新川崎タウンキャンパス



ミュージア川崎シンフォニーホール

## Ⅳ.令和の幕開けと未来へ

区制50年の歩みの中で大きく発展し、さらに「住み続けたいと思うまち」へ、幸区の変化はこれからも続きます。産業も、自然も、人も豊かに育まれるまちづくりを目指し、これからの若い世代へ紡いでいきます。



量子コンピューター

出典：日本IBM



幸区役所新庁舎



コトニアガーデン

平成5年	平成7年	平成12年	平成15年	平成16年	平成18年	平成24年	平成26年	平成27年	平成29年	平成31年	令和2年	令和3年	令和4年	令和6年
川崎市立工業高校を 川崎市立川崎総合科学高校としてリニューアル	川崎市立看護短期大学が開学 ソリッドスクエアが 明治製菓川崎工場跡地に設立	慶應義塾大学新川崎タウンキャンパスが 新鶴見操車場跡地に設立	日吉合同庁舎が開設 かわさき新産業創造センター「KBIC」が開設	ミュージア川崎シンフォニーホールが開館	ラゾーナ川崎プラザがオープン	ナノ・マイクロ分野の技術の研究施設 「NANOBIIC」が開設	東芝未来科学館が開館	幸区役所新庁舎がオープン 幸区の人口が16万人を超える	川崎市立商業高校を川崎市立幸高校に改称	産学交流・研究開発施設「AIRBIC」が開設 幸区の人口が17万人を超える	「KAWASAKI DELTA」が開設	新川崎・創造のもりでアジア初となる 量子コンピューターが稼働	幸区制50周年を迎える 川崎市立看護短期大学が4年制へ移行し、 川崎市立看護大学が開学	川崎市制100周年へ